

運用報告書（全体版）

第15期作成期

第85期(決算日2020年7月17日) 第86期(決算日2020年8月17日)
第87期(決算日2020年9月17日) 第88期(決算日2020年10月19日)
第89期(決算日2020年11月17日) 第90期(決算日2020年12月17日)

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／その他資産 (不動産投信・為替・オプション)
信託期間	2022年6月17日(金)まで (設定日：2013年6月28日(金)) 信託期間の延長が有利であると認めるときは、 信託期間を延長する場合があります。
運用方針	安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり 益の獲得をめざして運用を行います。
主要運用対象	主として外国投資信託証券である「CS グロー バル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド (適格機関投資家限定)」及び国内の証券投資 信託である「FOFs 用短期金融資産ファンド (適格機関投資家専用)」を主要投資対象とし ます。なお、短期金融商品等に直接投資する場 合があります。
組入制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設け ません。 ②外貨建資産への直接投資は行いません。 ③デリバティブの直接利用は行いません。 ④同一銘柄の投資信託証券への投資割合には 制限を設けません。 ⑤株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎月17日(休業日の場合は翌営業日)に決算を 行い、原則として以下の方針に基づき収益の分 配を行います。 ①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控 除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を 含みます。)等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、 市況動向等を勘案して決定します。ただし、 分配対象額が少額の場合は、分配を行わない ことがあります。 ③原則として、配当等収益を中心に分配を行 うことをめざします。ただし、基準価額水準等 によっては売買益(評価益を含みます。)が 中心となる場合があります。また、必ず分配 を行うものではありません。 ④収益分配にあてず信託財産内に留保した利 益については、運用の基本方針に基づき、元 本部分と同一の運用を行います。

グローバル・リート・ トリプル・プレミアム・ファンド (毎月分配型) (愛称:トリプル・プレミアム)

追加型投信／内外／その他資産
(不動産投信・為替・オプション)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「グローバル・リート・トリプル・プレミアム・
ファンド(毎月分配型)(愛称:トリプル・プレミアム)」
は、2020年12月17日に第90期決算を行いました。
ここに第85期～第90期中の運用状況をご報告申し上げ
ます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し
上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

○最近5作成期の運用実績

	決 算 期	基 準 価 額			投資信託証券 組 入 比 率	純 資 産 額
		(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰 落 率		
		円	円	%	%	百万円
第11 作成期	61期(2018年7月17日)	1,877	40	1.6	98.5	29,971
	62期(2018年8月17日)	1,832	40	△ 0.3	96.2	28,450
	63期(2018年9月18日)	1,791	40	△ 0.1	97.7	27,415
	64期(2018年10月17日)	1,667	40	△ 4.7	95.1	24,840
	65期(2018年11月19日)	1,607	40	△ 1.2	98.0	23,270
第12 作成期	66期(2018年12月17日)	1,568	40	0.1	99.4	22,481
	67期(2019年1月17日)	1,483	40	△ 2.9	94.8	21,001
	68期(2019年2月18日)	1,505	30	3.5	96.0	21,073
	69期(2019年3月18日)	1,509	30	2.3	97.1	20,595
	70期(2019年4月17日)	1,436	30	△ 2.8	96.0	19,484
第13 作成期	71期(2019年5月17日)	1,407	30	0.1	96.1	19,064
	72期(2019年6月17日)	1,412	30	2.5	96.8	19,031
	73期(2019年7月17日)	1,388	30	0.4	97.4	18,605
	74期(2019年8月19日)	1,393	30	2.5	97.1	18,537
	75期(2019年9月17日)	1,381	30	1.3	96.6	18,325
	76期(2019年10月17日)	1,374	30	1.7	96.5	18,136
	77期(2019年11月18日)	1,373	30	2.1	97.0	17,951
第14 作成期	78期(2019年12月17日)	1,338	30	△ 0.4	96.3	17,555
	79期(2020年1月17日)	1,337	30	2.2	95.9	17,583
	80期(2020年2月17日)	1,341	20	1.8	96.1	17,496
	81期(2020年3月17日)	706	10	△ 46.6	93.1	8,431
	82期(2020年4月17日)	701	10	0.7	97.1	8,104
	83期(2020年5月18日)	673	10	△ 2.6	98.8	7,761
	84期(2020年6月17日)	731	10	10.1	96.7	8,399
第15 作成期	85期(2020年7月17日)	702	10	△ 2.6	98.5	8,030
	86期(2020年8月17日)	728	10	5.1	97.0	8,279
	87期(2020年9月17日)	720	10	0.3	98.9	8,150
	88期(2020年10月19日)	688	10	△ 3.1	96.7	7,748
	89期(2020年11月17日)	731	10	7.7	96.6	8,060
	90期(2020年12月17日)	738	10	2.3	96.6	8,021

(注1) 期中騰落率は、各期末の基準価額(税込み分配金含む)を前期末基準価額(分配落)で除して算出したものです。

(注2) 当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を記載しておりません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

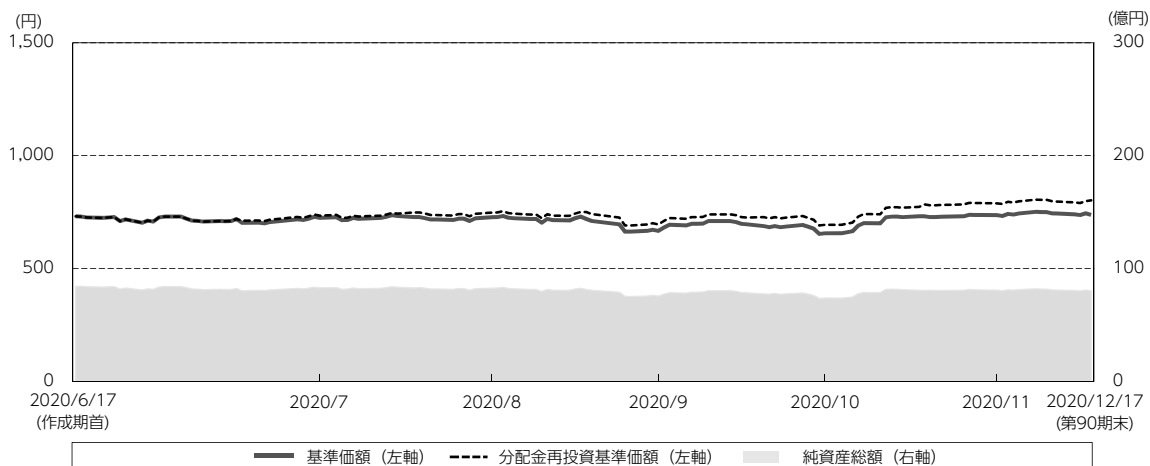
決算期	年 月 日	基準価額		投資信託証券 組入比率
			騰 落 率	
第85期	(期 首) 2020年 6 月17日	円 731	% —	% 96.7
	6 月末	712	△ 2.6	96.4
	(期 末) 2020年 7 月17日	712	△ 2.6	98.5
第86期	(期 首) 2020年 7 月17日	702	—	98.5
	7 月末	724	3.1	98.6
	(期 末) 2020年 8 月17日	738	5.1	97.0
第87期	(期 首) 2020年 8 月17日	728	—	97.0
	8 月末	727	△ 0.1	97.1
	(期 末) 2020年 9 月17日	730	0.3	98.9
第88期	(期 首) 2020年 9 月17日	720	—	98.9
	9 月末	667	△ 7.4	94.4
	(期 末) 2020年10月19日	698	△ 3.1	96.7
第89期	(期 首) 2020年10月19日	688	—	96.7
	10月末	656	△ 4.7	96.7
	(期 末) 2020年11月17日	741	7.7	96.6
第90期	(期 首) 2020年11月17日	731	—	96.6
	11月末	736	0.7	97.1
	(期 末) 2020年12月17日	748	2.3	96.6

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を記載していません。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2020年6月18日から2020年12月17日まで）

○基準価額等の推移



第85期首：731円

第90期末：738円（既払分配金（税込み）：60円）

騰落率：9.7%

（注1）当ファンドは、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

（注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注3）分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注4）分配金再投資基準価額は、作成期首（2020年6月17日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

【基準価額の上昇要因】

- ・保有したグローバル・リートETFの価格が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・為替取引・プレミアム戦略が奏功し、基準価額の上昇要因となりました。

【基準価額の下落要因】

- ・為替市場で米ドルが円に対し下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

○投資環境

※以下のコメントの内容は、クレディ・スイス・グループからのコメントをもとにSBIアセットマネジメントが編集したものです。

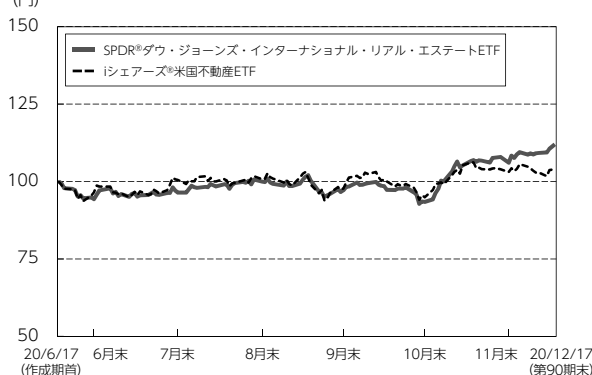
○グローバル・リート市場

当作成期の先進国リート市場は上昇しました。米国内における新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて、期初から7月中旬にかけて軟調に推移しました。7月後半から8月にかけては、米長期金利の低位安定がリーートの資金調達コストの抑制につながるとの見方から、持ち直しました。9-10月にかけては、これまで米国株式相場をけん引してきたハイテク株主導で大幅調整したことを受けて、投資家のリスク回避の動きが強まり、リート市場も下落しました。また、10月に欧米を中心に新型コロナウイルスの感染者が再び急増し、経済の先行き不透明感が強まったことや、米長期金利が上昇基調となったこともリート市場の下落に作用しました。11月の米大統領選挙後は、主要イベント通過後の安心感もあり、投資家のリスク選好姿勢が再び強まりました。また、新型コロナウイルスのワクチン開発で高い有効性を示す結果が相次ぎ、ワクチン実用化が見えてきたことも好感され、大幅上昇となりました。当作成期末にかけては、米国株高を受けてリスク選好姿勢が強まったものの、欧米の新型コロナウイルス感染者数の増加傾向や、米議会において追加経済対策の協議が難航していることなどが嫌気され、上値の重い展開となりました。

○為替市場

2020年下半期はドル安トレンド、良好な商品市況や高金利通貨への資金流入を背景に新興国通貨は全般的に堅調な流れとなりました。こうしたリプレーションの状況は新型コロナウイルスワクチンの普及への期待感、市場を支える世界的な財政及び金融政策によるものでした。実際多くの先進国では9000億ドルに及ぶアメリカをはじめとして年末までに財政拡大策を示し、豊富な量的緩和策を継続しました。こうした背景から商品価格や株式は上昇し新興国市場への資金流入も増加しました。

当作成期のリート ETF (米ドル建) の推移

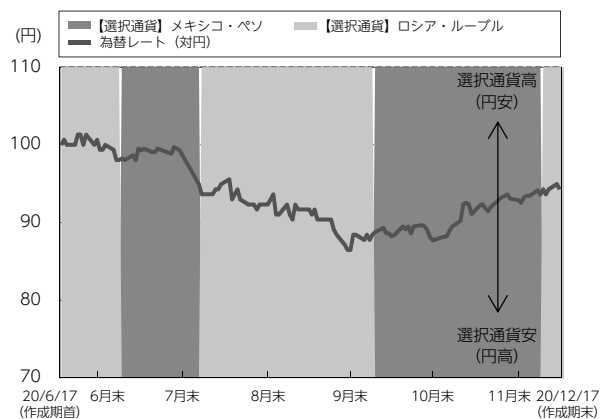


※ブルームバーグ等のデータを基に SBI アセットマネジメントにて作成しております。

※祝日等の場合には前営業日の数値で計算しております。

※リート ETF は、2020年6月17日を100として指数化しています。

当作成期の選択通貨の変遷及び為替レートの推移 (対円)



※為替レート (対円) は、2020年6月17日を100とし、選択通貨が見直された場合は連続した指数となるよう算出しております。

○当作成期の選択通貨について

ロシア・ルーブル（2020年6月（当作成期首）～2020年7月上旬、2020年8月上旬～2020年10月上旬、2020年12月上旬～当作成期末）

ロシア・ルーブルは堅調な原油高によるプラス要因の反面、政治的なリスク、脆弱な経済成長や実質金利低下によりやや上値の重い展開となりました。新型コロナウイルスの感染が劇的に拡大し年末にかけ加速したことを受けロシア主要都市での移動や行動制限が行われました。こうした影響は経済活動への打撃となり第三四半期ロシア経済の実質 GDP 成長率は年率ベースでマイナス 3.4%に落ち込み第 4 四半期を通じ総合 PMI 指数は景気の節目である 50 を下回りました。一方、インフレ率は食料品高騰を背景に 7 月 3.2%から 12 月 4.9%プラスに上昇しました。そうした中、政策金利は 0.25%下がり年率 4.25%となりました。それにより 2020 年下半期ロシアの実質金利は 2%程度低下し、こうした環境が下半期ロシア・ルーブルの上値を抑えることとなりました。

メキシコ・ペソ（2020年7月上旬～2020年8月上旬、2020年10月上旬～2020年12月上旬）

メキシコ・ペソは原油高、新型コロナウイルスワクチン開発の進展にまつわる楽観的なニュースや広範なドル安基調が追い風となり対ドルで 18%を超える上昇となりました。メキシコ中央銀行は 8 月と 9 月金融政策会合で新型コロナウイルス感染の不透明感に対応し 0.75%利下げを行い下半期は 4.25%としました。しかし金融政策会合ではインフレ状況に対して若干の警戒からその後 10 月以降は政策金利を据え置きました。中央銀行による声明ではこれはあくまで利下げサイクルの小休止で緩和政策終了ではない旨が強調されました。経済データは新型コロナウイルス感染状況に左右される展開が続きましたが、一方で堅調なアメリカ向け輸出を好感してメキシコ・ペソは上昇しました。第三四半期経常収支は 175 億ドル黒字と高水準を記録しました。12 月に入りファイザー社の新型コロナワクチン接種がメキシコでも開始されました。

○当ファンドのポートフォリオ

<当ファンド>

主として外国投資信託証券である「CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）」及び国内の証券投資信託である「FOFs 用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）」を主要投資対象とし、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。

<CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）>

主として担保付スワップ取引を対象とし、実質的に米国リート ETF、米国外リート ETF と各 ETF を対象としたオプション取引に加え、米ドル売り選択通貨買いの為替予約取引、並びに円に対する当該選択通貨のコール・オプション（通貨オプション）を売却した投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行ってまいりました。

<FOFs 用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）>

主要投資対象である「短期金融資産 マザーファンド」の受益証券を高位に組入れ、これを維持しました。

「短期金融資産 マザーファンド」において、日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化する中、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を特定していません。

○分配金

第85期から第90期における分配金は、当ファンドの分配方針に基づき、基準価額の水準や市況動向等を考慮した結果、合計60円（税引前）といたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
	2020年6月18日～ 2020年7月17日	2020年7月18日～ 2020年8月17日	2020年8月18日～ 2020年9月17日	2020年9月18日～ 2020年10月19日	2020年10月20日～ 2020年11月17日	2020年11月18日～ 2020年12月17日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 1.404%	10 1.355%	10 1.370%	10 1.433%	10 1.350%	10 1.337%
当期の収益	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外	10	10	10	10	10	10
翌期繰越分配対象額	2,533	2,523	2,513	2,503	2,493	2,483

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税込み）と一致しない場合があります。

○今後の見通しと運用方針

<今後の見通し>

2020年後半の世界的な株式市場の回復に比べ緩やかな上昇に留まった先進国リート市場は、今後も底堅い展開が続くと予想されます。今後、株価の高値が警戒される可能性や、金融緩和政策の長期化観測を受けて、株価、債券利回りの上昇余地が限定的とみられる中、相対的に高い配当利回りが期待できるリートが選好されやすい環境にあると考えられます。引き続き新型コロナウイルスの感染拡大は予断を許さず、金融市場は先行きが見通しづらい状況といえますが、米・英などで新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、世界経済の正常化へ向けた動きが加速することが期待されます。今後、ワクチンの普及が順調に進み他の主要国にも広がれば、不動産市場の活性化や賃料上昇への期待から投資家のリスク先行姿勢が強まり、リート市場の追い風になると考えられます。

<今後の運用方針>

引き続き、主として CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）への投資を通じ、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。

○CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）

主として担保付スワップ取引を対象とし、実質的に米国リートETF、米国外リートETFと各ETFを対象としたオプション取引に加え、米ドル売り選択通貨買いの為替予約取引、並びに円に対する当該選択通貨のコール・オプション（通貨オプション）を売却した投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。

○FOFs 用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）

主として、短期金融資産 マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の短期金融資産など（短期公社債及び短期金融商品を含みます。）を中心に投資を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年 6 月18日～2020年12月17日)

項 目	当 作 成 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	4 (2) (2) (0)	0.629 (0.303) (0.303) (0.022)	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	1 (1)	0.074 (0.074)	(b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷) (そ の 他)	0 (0) (0) (0)	0.015 (0.002) (0.013) (0.000)	(c) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等 信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	5	0.718	
作成期中の平均基準価額は703円です。			

(注1) 作成期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

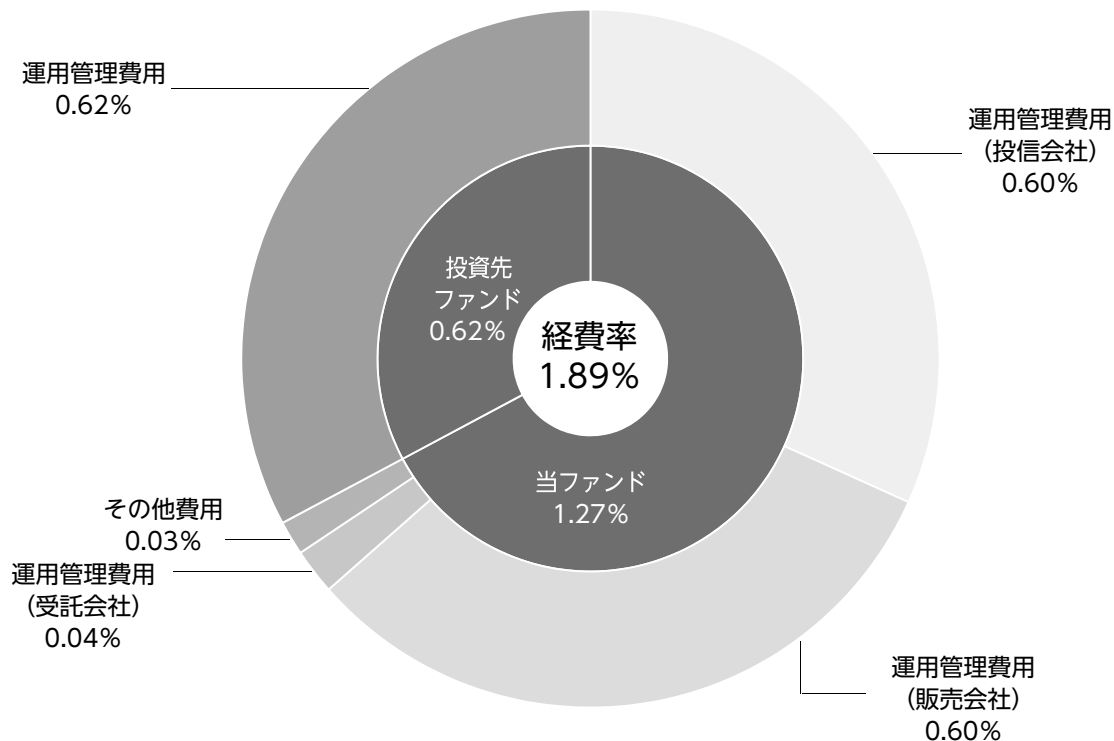
(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.89%です。



(単位：%)

経費率 (①+②)	1.89
①当ファンドの費用の比率	1.27
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.62

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年6月18日～2020年12月17日)

投資信託証券

		第85期～第90期			
		買付額		売付額	
		口数	金額	口数	金額
外国(邦貨建)	CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)	口	千円	口	千円
		—	—	2,735,150	1,170,110

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2020年6月18日～2020年12月17日)

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年12月17日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当作成期末		
	口数	評価額	比率
CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)	口	千円	%
	16,854,822	7,744,116	96.5
FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)		988	0.0
合計	17,856,024	7,745,105	96.6

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注2) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成

項目	当作成期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円	%
	7,745,105	94.9
コール・ローン等、その他	417,821	5.1
投資信託財産総額	8,162,926	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

	(2020年7月17日)、	(2020年8月17日)、	(2020年9月17日)、	(2020年10月19日)、	(2020年11月17日)、	(2020年12月17日)現在
項目	第85期末	第86期末	第87期末	第88期末	第89期末	第90期末
(A)資産	8,187,898,175円	8,421,329,436円	8,283,202,397円	7,908,065,251円	8,282,846,389円	8,162,926,829円
コール・ローン等	279,611,959	392,179,436	224,455,517	415,526,136	499,774,097	417,821,301
投資信託受益証券(評価額)	7,908,286,216	8,029,150,000	8,058,746,880	7,492,539,115	7,783,072,292	7,745,105,528
(B)負債	157,712,645	142,242,117	133,143,423	159,236,485	222,025,720	141,672,695
未払収益分配金	114,450,771	113,739,736	113,221,611	112,661,537	110,343,200	108,665,664
未払解約金	34,506,690	19,306,529	10,517,782	37,057,663	102,918,292	23,485,852
未払信託報酬	8,530,678	8,739,840	8,716,564	8,646,732	7,744,835	8,344,025
未払利息	766	1,074	614	1,138	1,369	1,144
その他未払費用	223,740	454,938	686,852	869,415	1,018,024	1,176,010
(C)純資産総額(A-B)	8,030,185,530	8,279,087,319	8,150,058,974	7,748,828,766	8,060,820,669	8,021,254,134
元本	114,450,771,018	113,739,736,540	113,221,611,545	112,661,537,262	110,343,200,286	108,665,664,761
次期繰越損益金	△106,420,585,488	△105,460,649,221	△105,071,552,571	△104,912,708,496	△102,282,379,617	△100,644,410,627
(D)受益権総口数	114,450,771,018口	113,739,736,540口	113,221,611,545口	112,661,537,262口	110,343,200,286口	108,665,664,761口
1万口当たり基準価額(C/D)	702円	728円	720円	688円	731円	738円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

(注1) 当ファンドの第85期首元本額は114,864,291,729円、第85～90期中追加設定元本額は6,157,485,704円、第85～90期中一部解約元本額は12,356,112,672円です。

(注2) 1口当たり純資産額は、第85期末0.0702円、第86期末0.0728円、第87期末0.0720円、第88期末0.0688円、第89期末0.0731円、第90期末0.0738円です。

(注3) 当作成期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は100,644,410,627円です。

○損益の状況

第85期(2020年6月18日～2020年7月17日)、第86期(2020年7月18日～2020年8月17日)
 第87期(2020年8月18日～2020年9月17日)、第88期(2020年9月18日～2020年10月19日)
 第89期(2020年10月20日～2020年11月17日)、第90期(2020年11月18日～2020年12月17日)

項目	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
(A)配当等収益	△ 24,953円	△ 21,451円	△ 21,244円	△ 32,775円	△ 21,440円	△ 22,100円
支払利息	△ 24,953	△ 21,451	△ 21,244	△ 32,775	△ 21,440	△ 22,100
(B)有価証券売買損益	△ 216,077,576	△ 420,177,168	△ 30,686,110	△ 238,049,467	△ 589,742,808	△ 199,116,730
売	1,917,170	422,930,930	30,548,405	4,353,292	596,936,307	200,530,764
買	△ 217,994,746	△ 2,753,762	137,705	△ 242,402,759	△ 7,193,499	△ 1,414,034
(C)信託報酬等	△ 8,754,418	△ 8,971,038	△ 8,948,478	△ 8,830,011	△ 7,893,444	△ 8,502,011
(D)当期繰越損益金	△ 224,856,947	△ 411,184,679	△ 21,716,388	△ 246,912,253	△ 581,827,924	△ 190,592,619
(E)前期繰越損益金	△ 19,691,654,643	△ 19,739,270,687	△ 19,146,069,734	△ 18,969,010,316	△ 18,768,280,559	△ 17,854,540,694
(F)追加信託差損益金	△ 86,389,623,127	△ 86,018,823,477	△ 85,833,977,614	△ 85,584,124,390	△ 83,985,583,782	△ 82,871,796,888
(配当等相当額)	(28,351,000,223)	(28,180,222,071)	(28,057,398,490)	(27,922,288,527)	(27,350,227,482)	(26,935,996,616)
(売買損益相当額)	(△ 114,740,623,350)	(△ 114,199,045,548)	(△ 113,891,376,104)	(△ 113,506,412,917)	(△ 111,335,811,264)	(△ 109,807,793,504)
(G)計(D+E+F)	△ 106,306,134,717	△ 105,346,909,485	△ 104,958,330,960	△ 104,800,046,959	△ 102,172,036,417	△ 100,535,744,963
(H)収益分配金	△ 114,450,771	△ 113,739,736	△ 113,221,611	△ 112,661,537	△ 110,343,200	△ 108,665,664
次期繰越損益金(G+H)	△ 106,420,585,488	△ 105,460,649,221	△ 105,071,552,571	△ 104,912,708,496	△ 102,282,379,617	△ 100,644,410,627
追加信託差損益金	△ 86,389,623,127	△ 86,018,823,477	△ 85,833,977,614	△ 85,584,124,390	△ 83,985,583,782	△ 82,871,796,888
(配当等相当額)	(28,351,000,223)	(28,180,222,071)	(28,057,398,490)	(27,922,288,527)	(27,350,227,482)	(26,935,996,616)
(売買損益相当額)	(△ 114,740,623,350)	(△ 114,199,045,548)	(△ 113,891,376,104)	(△ 113,506,412,917)	(△ 111,335,811,264)	(△ 109,807,793,504)
分配準備積立金	645,351,243	522,610,589	401,967,827	284,174,951	166,187,754	54,075,065
繰越損益金	△ 20,676,313,604	△ 19,964,436,333	△ 19,639,542,784	△ 19,612,759,057	△ 18,462,983,589	△ 17,826,688,804

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。
 (注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注4) 第85期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(28,351,000,223円)および分配準備積立金(759,802,014円)より分配対象収益は29,110,802,237円(10,000口当たり2,543円)であり、うち114,450,771円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。
 (注5) 第86期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(28,180,222,071円)および分配準備積立金(636,350,325円)より分配対象収益は28,816,572,396円(10,000口当たり2,533円)であり、うち113,739,736円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。
 (注6) 第87期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(28,057,398,490円)および分配準備積立金(515,189,438円)より分配対象収益は28,572,587,928円(10,000口当たり2,523円)であり、うち113,221,611円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。
 (注7) 第88期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(27,922,288,527円)および分配準備積立金(396,836,488円)より分配対象収益は28,319,125,015円(10,000口当たり2,513円)であり、うち112,661,537円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。
 (注8) 第89期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(27,350,227,482円)および分配準備積立金(276,530,954円)より分配対象収益は27,626,758,436円(10,000口当たり2,503円)であり、うち110,343,200円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。
 (注9) 第90期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(26,935,996,616円)および分配準備積立金(162,740,729円)より分配対象収益は27,098,737,345円(10,000口当たり2,493円)であり、うち108,665,664円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

○お知らせ

信託期間を1年間延長し、信託期間終了日を2021年6月17日から2022年6月17日に変更するため、信託約款に所要の変更を行いました。(変更適用日:2020年9月18日)

<参考情報>

主要投資対象の投資信託証券の概要

名称	CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)
形態	ケイマン諸島籍外国投資信託受益証券/円建て
運用目的	主として担保付スワップ取引を対象とし、実質的に、iシェアーズ®米国不動産ETF※1(以下、米国リートETFといたします)、SPDR®ダウ ジョーンズ インターナショナル リアル エステートETF※2(以下、米国外リートETFといたします)と米国リートETF、並びに米国外リートETFを対象としたオプション取引に加え、米ドル売り選択通貨買いの為替予約取引、並びに円に対する当該選択通貨のコール・オプション(通貨オプション)を売却した投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。
管理報酬等	純資産総額の年0.64%程度(うち、担保付スワップに係る費用年率0.44%、投資助言会社の報酬年率0.20%) 上記の他、信託財産にかかる租税、信託の事務の処理に関する費用、及び信託財産の監査に要する費用などを負担します。
決算日	毎年5月末日
管理会社	クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッド
投資助言会社	ミレニアム・グローバル・インベストメンツ・リミテッド
備考	担保付スワップ取引の相手方は、日々の株式オプションの評価、通貨オプションの評価、為替予約取引の評価及び担保付スワップ取引の評価も行っており、当該評価に基づいて当外国投資信託証券の純資産価額は計算されます。担保付スワップの取引の評価には、株式や通貨予約取引等へ投資する場合にかかるコストや税金等が反映されます。

※1 iシェアーズ®米国不動産ETFは、ダウ・ジョーンズ米国不動産指数の価格及び利回りの実績に概ね対応する投資成果(手数料及び経費控除前)をあげることを目標としたETF(上場投信)です。iシェアーズ®米国不動産ETFは、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズにより運用されており、ニューヨーク証券取引所 Arca 市場に上場されています。

*ダウ・ジョーンズ(Dow Jones)は、Dow Jones & Company のサービスマークであり、iシェアーズ・ファンドは、Dow Jones & Company が出資、保証、発行、販売、販売の促進を行っているものではありません。同社はまた、iシェアーズ・ファンドへの投資の妥当性に関していかなる意見も表明していません。

※2 SPDR®ダウ・ジョーンズ・インターナショナル・リアル・エステートETFは、ダウ・ジョーンズ・グローバル(除く米国)セレクト・リアル・エステート・セキュリティーズ指数の価格と利回りに、経費控除前で、連動する投資成果を上げることを目標とします。売買回転率の抑制、トラッキングエラーの最小化、コストの低減を追求する運用手法をとります。ダウ・ジョーンズ・グローバル(除く米国)セレクト・リアル・エステート・セキュリティーズ指数は、米国外で上場する不動産関連証券の動きをカバーする浮動株調整済み時価総額指数です。

CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)の状況
2020年12月17日現在入手している最新(2020年5月31日現在)の状況です。

貸借対照表

	2020年5月31日 (円)
資産	
担保付スワップの公正価値(費用: ¥57,248,404,159)	8,583,794,155
未収利息	1,940,881
資産合計	8,585,735,036
負債	
未払報酬等	1,940,881
負債合計	1,940,881
純資産	8,583,794,155
買戻可能な受益証券保有者に帰属する純資産	8,583,794,155
発行済投資信託証券	20,399,235
一口当たり純資産額	420.79

包括利益計算書

2020年5月31日

(円)

受取クーポン	4,650,074,648
担保付スワップの投資純損失	(8,710,929,420)
投資純収益	<u>(4,060,854,772)</u>
営業費用	(97,990,502)
費用合計	<u>(97,990,502)</u>
買戻可能な受益証券保有者に帰属する純資産の変動額	<u>(4,158,845,274)</u>

FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）の状況

2020年10月26日現在入手している最新（第10期決算日（2020年9月25日現在））の状況です。

○1万口当たりの費用明細

（2019年9月26日～2020年9月25日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 14	% 0.143	(a)信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,888円です。 信託報酬に係る消費税は当（作成）期末の税率を採用 しています。
（投 信 会 社）	（ 11）	（0.110）	委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等 の対価
（販 売 会 社）	（ 1）	（0.011）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファン ドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	（ 2）	（0.022）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.005	(b)その他費用＝〔期中のその他費用〕÷〔期中の平均 受益権口数〕×10,000
（監 査 費 用）	（ 1）	（0.005）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係 る費用
（そ の 他）	（ 0）	（0.000）	その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	15	0.148	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファン
ドに対応するものを含まず。

（注2）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○組入資産の明細

親投資信託残高

	当期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
短期金融資産 マザーファンド	千口 113,922	千口 15,377	千円 15,568

（注）親投資信託の当期末における受益権総口数は9,234,430千口です。

○投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
短期金融資産 マザーファンド	千円 15,568	% 99.9
コール・ローン等、その他	21	0.1
投資信託財産総額	15,589	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月25日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	15,589,372円
コール・ローン等	20,821
短期金融資産 マザーファンド(評価額)	15,568,469
未 収 入 金	82
(B)負 債	13,176
未 払 信 託 報 酬	11,101
そ の 他 未 払 費 用	2,075
(C)純 資 産 総 額(A - B)	15,576,196
元 本	15,767,297
次 期 繰 越 損 益 金	△ 191,101
(D)受 益 権 総 口 数	15,767,297口
1万口当たり基準価額(C / D)	9.879円

○損益の状況 (自2019年9月26日 至2020年9月25日)

項 目	当 期
(A)有 価 証 券 売 買 損 益	29,549円
売 買 益	19,700
売 買 損	9,849
(B)信 託 報 酬 等	△ 57,669
(C)当 期 損 益 金 (A + B)	△ 28,120
(D)前 期 繰 越 損 益 金	△ 28,372
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	△ 134,609
(配 当 等 相 当 額)	(748,899)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 883,508)
(F) 計 (C + D + E)	△ 191,101
(G)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (F + G)	△ 191,101
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 134,609
(配 当 等 相 当 額)	(748,899)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 883,508)
分 配 準 備 積 立 金	12,737
繰 越 損 益 金	△ 69,229

(注1) (A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

当ファンド（FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用））が投資対象としている「短期金融資産 マザーファンド（第13期決算日（2020年9月25日現在））」の組入資産の内容等の状況

○1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2019年9月26日~2020年9月25日)		
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 0	% 0.000	(a)その他費用＝〔期中のその他費用〕÷〔期中の平均 受益権口数〕×10,000
（ そ の 他 ）	（ 0 ）	（0.000）	その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	0	0.000	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

（注2）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○組入資産の明細

当期末における該当事項はありません。

※日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化するなか、国債と比較してより利回りの高い非国債セクターの保有短期債の満期償還以降は、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

○投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	9,350,286	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	9,350,286	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月25日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	9,350,286,816円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	9,350,286,816
(B)負 債	1,441,891
未 払 解 約 金	1,430,082
未 払 利 息	11,809
(C)純 資 産 総 額(A - B)	9,348,844,925
元 本	9,234,430,779
次 期 繰 越 損 益 金	114,414,146
(D)受 益 権 総 口 数	9,234,430,779口
1万口当たり基準価額(C / D)	10,124円

○損益の状況 (自2019年9月26日 至2020年9月25日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	△ 8,256,605円
受 取 利 息	62,186
支 払 利 息	△ 8,318,791
(B)そ の 他 費 用	△ 20,510
(C)当 期 損 益 金 (A + B)	△ 8,277,115
(D)前 期 繰 越 損 益 金	112,176,004
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	487,039,330
(F)解 約 差 損 益 金	△ 476,524,073
(G)計 (C + D + E + F)	114,414,146
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	114,414,146

(注1) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注2) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。